

令和4年9月
第48号

発行責任者
首都圏段戸会
会長
内山田 邦夫
編集者
広報担当
織田 利彦

会長挨拶

首都圏段戸会会長

内山田 邦夫 (高21回)

本年6月、岡高同窓会総会・懇親会に出席しました。コロナワクチンの接種歴の確認など入念な管理措置を講じつつ、議題の審議、岡校の近況説明、コーラス部による豊富なレパートリーの合唱披露などが進行する中、活況を呈していたことが印象的でした。

近況説明では、県側のイニシアティブにより、中高一貫教育の可否について各県立高校に検討が求められているとのことでした。中高一貫教育にはそれ相應の理念がありますが、敷地・施設等の予算措置を伴わない形での検討が求められているため、選択肢としては、高校の1学年あたりのクラス数・生徒数を減らした枠で中学の学年を編成するという案が有力であり、対応に苦慮しているそうです。

ある面、岡崎高校の本質に関わることであり、同窓生の一人として大変気になりました。

一方、首都圏段戸会も10月に総会を予定しており、現在、最終的な詰めを行っているところです。コロナ情勢の中、昨年は関係者のご尽力により、リアル総会(規模縮小)とZoomの二本立て、いわゆるハイブリッド方式を導入していただきました。翻って考えれば、首都圏段戸会の多くの人たちが、進学、就職、結



婚、転勤等で互いに音信不通になる悲哀を経験して来たと思います。しかし、何かと限界・制約のある住所と違い、メールアドレスであれば、一定のセキュリティ対策を踏まえたうえで(了解を得たうえで)、共有を図ることが可能です。また、メールアドレスがあれば、Zoom、SNS等のツールの活用も可能になりますし、今後更なる進展が見込まれるDX(デジタル・トランスフォーメーション)の波を取り込むことも可能になると想像されます。勿論、DX化は補助的なツールに止まり、本質はあくまでリアル世界での交流や活動ではありますが、同窓会

会員相互の絆を確たるものにするうえで有意義な方向かと、考えているところです。

新型コロナウイルスが発生してから間もなく3年。その後も、急速な円安、物価高騰、ロシアによるウクライナ軍事侵攻と、視界の晴れない厳しい局面が続いています。岡高同窓会各位におかれては、そんな困難な中で鋭意邁進されていることと推察致します。リアル総会の場合やDXのチャンネルを通して、皆様の活躍ぶりや健在ぶりをお聞かせいただければ大変ありがたく思います。

段戸サークルのお問合せ先

皆さまの参加をお待ちしています!

- “段戸囲碁会” (幹事: 早川 慎吾 高32回) hayakawa@a00.itscom.net
- “段戸音楽会” (幹事: 石川 航己 高58回) koki-ishikawa.49@gmail.com
- “段戸句会” (幹事: 野村 親信 高16回) nomurac@jcom.home.ne.jp
- “段戸山の会” (幹事: 石川 定雄 高30回) s_ishikawa44@b04.itscom.net
- “胃文化交流会” (幹事: 小出 一典 高33回) kazunori.koide72@gmail.com
- “副業推進会” (幹事: 加藤 研一 高30回) katosoke@gmail.com

「首都圏段戸会」は愛知県立岡崎高等学校の首都圏同窓会です。

公式ホームページ

<http://dandokai.o.oo7.jp/>

首都圏段戸会

検索



パソコンやスマートフォンが不得意な方も、お子さんやお孫さんに操作を頼んで、一度ホームページを訪ねてみて下さい

第50回首都圏段戸会総会・懇親会のご案内

- 日 時 令和4年10月29日（土）13：00～17：00
（受付 12：30～）
- 場 所 アルカディア市ヶ谷（私学会館）（右地図参照）
千代田区九段下北4-2-25（TEL 03-3261-9921）
JR市ヶ谷駅から徒歩2分
地下鉄市ヶ谷駅（有楽町線、南北線、新宿線）
から徒歩2分



総会、講演会はオンライン配信（Zoom）されます。

— 新型コロナウイルス感染防止に向けたお願い —

- ・マスクの着用を必ずお願いいたします。
- ・会場入場口に消毒用アルコールを設置いたします。また、検温をいたしますのでご協力ください。
- ・発熱症状や咳など体調がすぐれない方はご来場をお控え願います。

- 講演会 タイトル：未来創造につながる起業家精神
講師：野口 謙吾（高33回）

三井住友信託銀行 代表取締役副社長
NES（New Ecosystem for Startups）株式会社 取締役
慶應義塾大学SFC研究所 上席所員
愛媛大学客員教授 山形大学客員教授

（略歴）

1981年3月 愛知県立岡崎高校卒業
1985年3月 慶應義塾大学経済学部卒業
同年 4月 住友信託銀行株式会社入社
2012年4月 三井住友信託銀行執行役員投資金融部長
2015年4月 同社常務執行役員ストラクチャードファイナンス部長
2019年4月 同社取締役専務執行役員
2021年4月 同社取締役副社長

2019年に地域における起業家育成支援を目的としたNES株式会社を創業し、取締役に就任。

ベンチャーキャピタルファンド運営とともに、大学や自治体での講演、ビジネスプランコンテストでの審査員等を担う。2021年には慶應義塾大学SFC研究所とともにコンソーシアム「次世代テクノロジー&ファイナンス」を設立。テクノロジーの社会実装による社会課題解決と政策提言を行うことを目的としており、自らも上席所員として参画。

- 懇親会 総会終了後、懇親会をご用意しております。今回は会場にて「着席バイキング形式」で行い、前回はオンラインによる参加はございません。
会費：7,000円

ただし、以下の会員には特別割引があります。

若手会員（高60回以降）	5,000円
学生会員（高60回以降の大学、大学院、専門学校等の学生）	2,000円

挑戦する権利 失敗する自由

高46回 繁田 奈歩

高校を卒業して大学に入った当初はこんな人生を歩むとは微塵も考えていなかった。英語も苦手、会社を興すことも一切視野になかったのだが、結果的に今はインドで会社を1社のみならず複数展開するといった運に恵まれている。

大学で東京に出た後、学生の時くらいしか長期休暇はないと思いき、興味はあまりなかったが、当時個人旅行ブームもあって一度くらいは海外へ行こう、それなら長期休暇がある学生時代に行った方がいいよねというだけの理由で海外旅行を決意し、フライトに学割があるという理由だけで旅先をインドに決めた。偶然その旅行の時に出会った同い年の京大の子が行方不明となる事件があり、搜索等をしていた中でバックパッカーでも安全な旅をといたアイデアから遊びのような形でインドで旅行会社プロジェクトを立ち上げた。このインド旅行会社プロジェクト



クトをやりつつ、ひよんなことからスキースクールの居候生活からのスキー三昧な生活が開始され、雪のない時期はインドと大学、雪の時期はスキーを中心にテストの時だけ山から下りるという生活が数年続いた。

その後、このままではまっとうな大人になれないとふと思いつき、インドプロジェクトから抜け、山からも下りて大学でも卒業するかという気になってきたときに渋谷のビットバレーのベンチャーチームで第二創業をしようとしていた前職の社長にたまたま声をかけられた。「質問は一つだけ。YesかNoか?」の質問に「Yes?」と答えたことで、3人目の社員としてスタートアップの創業に参加した。狂信的というのかなんというのかただひたすらに仕事にもまれた日々で、月曜に会社に行ったら泊まり込み、夜中2時まで仕事をし、朝5時まで社食のようなバーで飲み倒し、会議室で雑魚寝をして8時には仕事開始、日曜夜に家に帰るとい生活が2年ほど続いた。結果的に、アホみたいに集中的に仕事をした期間となり、この期間様々な経験を積みこ

ととなった。インターネット時代の幕開けでもあり、専門家がほとんどいない中で、若いながら事業開発、技術、マーケティング、ファイナンス等それぞれ企業の上げに必要な分野を全て経験することとなり、気づいたら部下数百人を率いる立場となっていた。

そんなこんなで3年も東京で仕事をして飽きてきてしまった時に、創業社長から新しいチャレンジしようよ、ということで飛び込んだのがこれまた縁もゆかりも興味も

なかった中国市場。一から会社を立ち上げていくうちに本社が売却された。これをきっかけに独立することになったのだが、折角起業したのであればナンバー1を目指すべきだということで競合不在、未来の大市場と言われたインドにたどり着くこととなった。そこから早15年。岡崎の地元で過ごした18年に次いで、今住んでいるデリーが15年と人生の中で2番目に長い居住地となり、あと数年で人生で最も長く住むことになる街が異端の街デリーになるということがほほみえてきている。

こんな紆余曲折の人生を送っている中、今年日印70周年記念年の大使館や商工会などが主催する記念行事を請け負うこととなり、両国の関係深化には若者たちの関係づくりが大事であるとのビジョンの下、日印の学生を4人1チームで組成し、デリーから3000年の悠久の歴史、ガ

ンジス河を抱くバラナシ迄旅を通じて学びあい、アイデアソンを行うというプロジェクトに携わっている。プロジェクトを通じて様々な若者たちに会う中で、キャリアについても色々思うことがある。一つは、自分が高校から大学入学に至るまでに知っていたキャリアパスに比べて現実の社会でもっと多様な選択肢があるということ。私が大学に入るころは、大学を卒業したら官僚か研究者にでもなるんだらうとしか考えていなかったが、もっと多様な生き様を見聞きすることで人生の選択肢はもっと広がるのではないかと。加えて、少しでも興味があれば、チャレンジをすることで様々な人生が切り開けるということ。特に自身でも高校大学を通じて英語は苦手中の苦手であったが、心理的なバリアを取

り払ってトライしてみれば結果的には普通にビジネスをできるくらいまでは身につくものであった。更にもう一つは、人生のひと時、すべてを忘れて何かに打ち込むことが結果的には楽に人生を生きられることになるかもしれないということ。近年ワークライフバランス等とも言うし、勿論それを否定するつもりはないが、何かに対してプロフェッショナルになると思えば、ある一定の時間を要することが多く、どこかで集中的に時間を投下することで逆にそれが楽にかつゴールへの近道になるのではなからうかということだ。こんなことを今当社の若手社員等に言うとき「昭和の世代は」などと揶揄される世代にもなっているが、寝食を忘れて迄しっかりと打ち込めるものがあるということは相応に幸せな訳だし、加えてそこでの経験という財産はその後の人生にも十分役立つものである。

偶々大学で東京に出て、その後インドという国に出会い、その延長線上でスタートアップ創業の一つの時代に立ち会うことができ、更にはグローバル化の波の始まるの時期に運よく海外に出てきた中で、「多彩な可能性を若い時代に経験すること」「心理的なバリアを外してトライしてみること」「集中的に打ち込むこと」をもっと若い世代の子たちが体感できるようにすることができれば、日本という国も閉塞感があるという地方というものも変わっていくのではないかと思う。

「挑戦する権利 失敗する自由」とは私の前職の社長である師匠が言っていることだが、もっと多様な選択肢を若者たちが体験し、自ら挑戦するようなそんな環境を日本の外からでも作っていきたくて考えている。

芸術と科学のあいだで

高64回 細井 美裕

岡高の卒業生のみなさんのなかに私のような職業の方は少ないかもしれませんが、普段は美術館や屋外で音の作品を発表したり、音を使った表現(サラウンド、立体音響と呼ばれる分野)のためのシステムの開発に携わっています。近年の活動としては、羽田空港での展示、無人島・猿島での展示、Sonyオーディオチームとの共作などがあります。羽田空港では1年弱展示していたので、もしかしたらご覧になった方もいらっしゃるかもしれません。高いもので高さ6m、全部で70個ほどのホーンを使ったサウンドインスタレーションです。もしこの辺りの技術などに興味がある方は、Sound & Recording Magazineで毎月連載しているので是非ご覧くださいます(Webでも読めます)。

ちょうど先日、岡高生へ向けた進路説明会でも講演をしましたが、岡高時代に熱心に取り組んだ音楽の経験と、大学進学後の学部の思想の軸でもあった文理融合の実践が今の私の活動に大きく影響しています。進学先の慶應SFCでは文系理系関係なく、学部も超えて授業を受けることができ、所属している教授の方々も自身で作品を発表していることがよくありました。その教授たちの背中を見て学んだ視点は、表現ももちろんするけれど、その表現されたアウトプットだけが作品ではなく、それを制作するためのソフトウェアやハードウェアに関わるシス

テムの設計、ひいては社会に実装するまで(自分たちのためのシステムに留めず社会に公開するまで)を考えるとということでした。教授にはまだまだ及ばないですが、困難の中にも楽しさを見いだすことができ、活動はこれからも続きそうです。この原稿を書いている今は、新作展示の設営のためにパリにいます。パリのヴァンドーム広場にある会場で、フランス国立音響研究所(IRCAM)チームとAMADEUSという音響会社のサポートのもと、3027th(全部で39個のスピーカーをもちいた)サウンドインスタレーションを発表してきます。海外の芸術祭に参加したことはありませんが、ちょうどコロナで渡航が難しい時期で、今回が初めて海外で実際に設営する機会となりました。とはいえ制作の作業は国内で、音響チームは私以外、全員普段パリにいます。2、3ヶ月ほど前からパリのチームが開発したソフトウェアの使い方のレクチャーを受け、オンラインで綿密に打ち合わせを続け、ようやくパリに来ることができました。フランスのメンバーと制作をしてみても、日本との違いを感じた先方のやりとりで、ソフトウェアは(今回の場合)あくまで表現のためのツールであり、Miyu(筆者)はそれを使って表現することに注力すればいい。表現したいことがあって、でもツールが使いこなせなかったとしても、それを実現するためにベストなチームを用意している。という内容がありました。これはつまり、ツールを使いこなすことを目的とせず、もっと大きな表現をチーム全体の目標としようという態度を伝えてくれたと理解しています。一見当たり



ルーブル美術館前
担当したプロジェクトの広告の下で

前の内容のように思えるかもしれないですが、特に私が普段活動しているマシンベースの制作においては頻繁に課題として挙げられます。難しい技術を使えば使うほど、それを使いこなすことが目的となってしまう、「そもそも何を実現しようとしていたか」が疎かになってしまふという問題です。これはきつと永遠の課題で、かつマシンの使用不使用にかかわらず、実現困難な手段を取ろうとした時に起こりうることだとも思っています。パリのチームから言われた内容については、芸術が身近にある国の、芸術に携わる人たちの心持ちの違いの表れでもありつつ、初心忘るべからずと言われたような気もしました。

いよいよこのあと設営に向かいます！作品制作の大きな流れを見れば普段と変わりのない過程ではありますが、環境や関わる人たちが代わることで気づかされるのがたくさんあります。例えば先方のエンジニアとスムーズに打ち合わせを

するためには、エンジニアが何を求めているか、自分が何を提供しないといけないかを理解できていないと難しい。でもそれがうまくいった時、自分の成長を感じ、自信が付き嬉しく思うと同時に、こんなことはもともと自分一人ではできていなかったことにも気づきます。日本で普段お世話になっているエンジニアの皆さんに未熟だった時から育てていただいたおかげで今があることを実感しています。

今後新作の発表の機会がいくつか控えており自分に満足するタイミングでは全くないのですが、初めての海外での展示のタイミングでこのように振り返る機会をいただけてありがたく思います。これまで関わってくださった皆様に恥じないよう、そしてこの文章を読んでくださっている方々に興味を持っていただければ、楽しく続けていけたらと思っています。いつかみなさまに作品でお耳にかかれる日まで、日々精進です。

子育てwith仕事 —「コロナ禍を経て」—

高52回 近藤 佳子

2020年末に長女を出産しました。当時は、テレビをつければ新型コロナウイルスの話題で持ちきりの頃でした。日本ではまだワクチン接種が始まる前で、正体不明のパンデミックとして恐れられ、緊迫した雰囲気世の中に蔓延していました。そのような状況は産院も例外ではありませんでした。私は予定帝王切開だったので、手術日の前日に入院しましたが、8日間の入院期間中、家族といえども面会はいっさい禁止、唯一出産当日のみ一人に限って面会が許されるのですが、それも病棟から手術室に移動する間に廊下で5分間だけという状況でした。

退院してからも、緊急事態宣言が幾度となく発動され、親しい友人や両親にも会えない日が数ヶ月続きました。ちょうど医療現場の逼迫が問題となっている頃で、とにかく感染しないよう外出を控えている時期でした。そんなふうには制限の多い中で妊娠、出産、そして子育てのスタートとなりましたが、反面良かったと思うこともありましたが。まずは、入院中ですが、家族にも面会できず寂しいだろうと思っていました。実際には出産時に切った帝王切開の傷が痛過ぎて、誰にも会えるような状況ではなかったので、面会禁止は幾分気が楽でした（みなさん普通はどうされているのでしょうか）。また当時は夫の仕事場でも在宅勤務が中

心で出張や会食も自粛していました。実家が遠く（夫も私も愛知県出身です）、両親に頼れない身としては、仕事中心はいえ家族が家にいてくれるのは、とても安心できました。

今回の出産では、産休と育休を合わせて一年半も休暇を取得したので、今までやりたかったことをあれこれしたいと夢を膨らませていましたが、時間があるようでない毎日が慌ただしく過ぎていつてしまい、結局子育て以外ほとんど何もすることなく育休が明けてしまいました。（トライしたかった洋服作りだけは、区が提供する一時保育制度を利用してソーイングレッスンに通い、3着ほど仕上げました。）有難かったのは、私の住んでいる区はコロナ禍でも、育児関連の施設やサービスの提供を継続してくれたことでした。近所のママとの交流会、子育てスペース、一時保育や家事代行など様々なサービスを利用しました。育児中は孤



筆者と娘（当時1歳半）

立しがちな期間ですが、そういった育児関連の施設やサービスを利用して知り合いの輪も広がり大変有難かったです。地域の行政サービスについて普段はあまり意識していなかったのですが、見直す良い機会となりました。

職場には子供が1歳4ヶ月になる頃に復帰しました。新型コロナウイルスの感染者数は大分落ち着いて、代わりにウクライナの大変な状況が毎日ニュースで取り上げられていました。一年半ぶりの仕事復帰でしたが、私の職場は在宅勤務が基本となっていました。「はじめの1ヶ月間は時短勤務で」と思っていたのですが、始めてみるとそう上手くはいかず、初月からフルタイム復帰となりました。ただ、在宅勤務のため、身支度の時間があまり必要なく、そのおかげで何とかやりくりできました。

仕事を始めて1ヶ月が過ぎた頃、夫が1週間の海外出張に行くことになりました。慣れない仕事と子供の世話を全て一人でこなさなければならぬという中で精神的にも体力的にも一杯一杯で、夫の帰りを指折り数えていたところ、なんと夫が帰国して空港で受けた新型コロナウイルスの検査で陽性が判明し、ホテル隔離となりました。急なことで何の心の準備もできていなかったこともあり、陽性を知らせるLINEメッセージを見て一瞬パニックに陥りました…。朝は6時頃に起きて、朝食を（なぜか40分位かけて優雅に）とる娘の面倒を見ながらお弁当を作り、着替えをさせて、保育園に送り出します。それが済んだら、散らかり放題の玩具や服をさっと整えてすぐに仕事にとりかかります。夕方5時過ぎに迎えに行きながら買い物をし、帰ってきたら2人分のご飯を作って食べて、お風呂に入れて寝かしつけます。1歳半頃の子供は、まだほとんど目を離すことができないので、何のことはない日常生活なのですが、これがなかなか大変でした。

子育てをしていると、人間ほど子育てに手のかかる動物は他にいないのではないかと感じてしまいます。とはいえ、子供がまだ数ヶ月の頃、自分の手を発見して不思議そうに見ていたり、ある日どうやら足が自分のものらしいということに自覚したり、そういった変化を見るのは新鮮でした。私自身も、子供が毎日見ている「おさるのジョージ」の歌を初めから最後まで歌えるようになったり、子供向け番組のイントロだけで番組名がわかったり、そんな日々が怒涛のように過ぎていく毎日ですが、小さな変化を楽しみながら歳を重ねていけたらと思う今日この頃です。あと数年もしたら、娘も小学校にあがります。いま目の前にいる1歳半の小さな女の子が、これからどんな人と出会い、どんな人生を歩んでいくのか、楽しみに見守っていかれたらと思います。

私のいた頃の岡高 — 修学旅行のリベンジー —

高20回 清水 徹

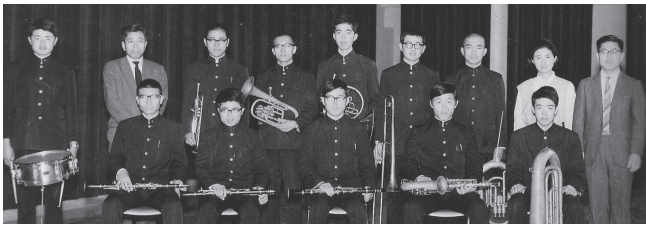
私たち「団塊の世代」が岡高にいた頃を振り返ると、日本経済は高度成長、マイカーブーム、東海道新幹線開業、東京オリンピック、海外渡航自由化など目覚ましい発展を遂げた反面、学生運動、ベトナム戦争、東西冷戦など、現在と同じく対立の時代でもありました。

1. 高校生活

当時、岡高は1学年9クラス、1クラス55人のすし詰め、クラスは1年が男女混合、2年は男女分離、3年は文系・理系・文理混合。土曜・夏休みも授業があり、中間考査、期末考査、実力テストに追い捲られ、当時流行った高石ともや「受験生ブルース」の、砂を噛むような味気ない、日々でしたが、せめてもの潤いは体育祭、文化祭、部活。私は中学時代からブラスバンド部で、クラリネットを吹き、同期らと発表会や高校野球応援などに参加し、日頃溜まった鬱憤を晴らしていました。

2. 修学旅行

楽しみの修学旅行は授業時間の関係で2年生の夏休みに行われることになり、行き先は全生徒アンケートの結果、なぜか「佐渡・会津若松」



筆者は前列中央

に決定。コースは4泊5日で、(初日)開業直後の新幹線ではなく在来線で東京駅へ(所要7時間半)、上野駅からは夜行列車に乗車、(2日目)早朝に新潟駅到着(同8時間)、新潟港から船で両津港へ(2時間半)、金北山スカイラインや佐渡金山、尖閣湾を周遊し相川の宿へ。(3日目)島内の博物館、寺などを見学して午後、船で新潟に渡り市内の宿へ。(4日目)早朝、列車で会津若松へ(同3時間半)、鶴ヶ城、飯盛山、野口記念館を見て那須湯本へ。(最終日)那須高原を周遊して黒磯駅から列車で上野駅経由帰郷(同8時間余)。しかし、時期は真夏、しかもエアコンもない時代で、列車、見学先、宿どこでも汗びっしょり、しかも男女別々のクラスで、楽しい思い出など殆ど残らなかった旅でした。

3. 大人の修学旅行

次は、私の首都圏段戸会と在京同期との出会いについて。東京勤務・千葉県在住が長かったものの、在職中は首都圏段戸会や在京同期と交流する機会は殆どなく、定年退職後に同期&同クラスの神尾さんに勧められて6年前に初めて顔を出し、その後も毎年参加するようになりました。そうしたなか、4年前に彼女が中心となって「大人の修学旅行」と題し、50年振りに再び「佐渡・会津若松」を巡る旅をしようと企画、在京者以外も含む同期全員に案内を送ったところ、関東・東海地区から20人弱が参加。とりわけ印象深かったのは小雨模様の中、尖閣湾の岩場で雲の切れ間から突如夕陽が顔を出し、まさに天地創造の再現でした。とても思い出深いリベンジの旅となりました。

4. コロナ禍

その後は、コロナ禍で集うこともできず、LINEグループトークを通じて活発に交流を続けていますが、今年4月に

は、コロナ禍の落ち着きを機に、皆で上野東照宮・湯島天神界隈を散策し、新緑を満喫しながら互いの健脚ぶりも再確認でき、思う存分語り合いました。

5. 結びに代えて

「私がいた頃の岡高」よりも「卒業50年後」の話になってしまいました。岡高で共に学んだ仲間だからこそ老後を迎えた今、何でも遠慮なく時間を忘れて遊び語り合えるということを若い方々に伝えたいと思います。締めめに私の近況ですが、リタイア後は地域貢献をしようと、シルバー人材センターに入会し、障がい者の職業指導(園芸など)や公共施設の管理人に従事し、また同センター理事として高齢者の就業機会拡大等に微力ながら知恵を絞っている日々です。

段戸サークル活動報告

俳句の会

高13回 本多 悠天(正之)

段戸句会は2004年に首都圏段戸会のサークルとして発足しました。俳句に興味のある同窓生、また、いままでやったことはないが始めてみようという同窓生が楽しく学び、地域、年代を超えて交流する会です。現在約17~18名の会員に参加していただいております。とても幸いなことに、同窓の平田冬か先生(高14回、旧姓仙波環)のご厚意で丁寧な選句・添削そして講評を十八年間も続けていただいております。

スタート時には、特にシステム構築に関して多くの同窓生の方々のお世話にな

りました。本当にありがとうございます。会の仕組みと参加の仕方は、首都圏段戸句会のホームページの「段戸句会」にやさしく、詳しくご案内されておりますが、ざっと以下の通りです。

【投句】奇数月の月末までに5句投句。できれば最低2句は兼題の季語を使つた句。

【互選】奇数月の翌月の初めに、全部の句が名前を伏せて披露される。その中から各自良いと思う句を特選として3句、入選5句を投票する。ネットを通じて、そのすべてを参加者全員が見られる仕組みになっている。

【先生の選】参加者全員の選の後、先生の特選3句とそれぞれの参加者ごとに1~2句ずつ選んでいただける。その過程での先生の講評、あるいは添削がとて役に立ちます。自分の句のみならず他の人の句の講評もとても貴重なものとなります。

この過程の要諦は毎回ホームページに掲載されます。多くの皆様のご参加をお待ちしております。なお現在、段戸句会の世話人は野村親信氏(高16回 nomurac@jcom.home.ne.jp)です。段戸句会の活動にご興味のある方、ご質問のある方、何なりと世話人までご連絡ください。

最後に、僭越ながら以下のような小生の拙筆をご紹介します。基本的に初心者向きではありませんが、お望みであれば、ネットを通じて無料でご案内します。

(masa-honda@onyx.ocn.ne.jp)

①高浜虚子以降の俳人(29名)系譜表と代表句(コピーを郵送・無料)

②俳句創作の三つの基本と心がけたい10項目

③「虚子百句」稲畑汀子著」の要約版(19頁相当)

運営協力金ご支援のお願い

毎年、多数の会員の皆様に運営協力金のご支援をいただき、誠にありがとうございます。運営協力金は、総会開催、会報発行、世話人活動など会の運営を支える原資として大切に使用させていただいております。趣旨をご理解のうえ、本年もご協力賜りますようお願い申し上げます。会報同封の郵便振替用紙に加え、銀行振り込みの利用も可能となりましたので、ご活用ください。「1口1,000円」とし、できるだけ2口以上のご協力をお願いいたします。

1. 銀行振込の場合

下記の口座にお振り込みください。また、振込依頼人名の前に年次をご入力ください。

(例：高10回 岡崎太郎様の場合 10オカザキ タロウ)

銀行：ゆうちょ銀行
支店：〇一九店（ゼロイチキユウ店）
預金種目：当座 口座番号：0059423
口座名義：シュトケンダントカイ（首都圏段戸会）

2. 会報同封の郵便振替用紙利用の場合

これまで同様に郵便局にてお手続きください。なお今回より手数料はご本人負担とさせていただきます。

令和4年度 首都圏段戸会 世話人名簿

- (高2回) 服部 登
- (高3回) 丹羽 鼎
- (高6回) 有馬 弘政
- (高7回) 是津 定利
- (高8回) 田中 厚生
- (高9回) 岡田 敏夫
- (高10回) 宇佐美 忠利
- (高11回) 太田 栄之
永田 宏
- (高12回) 鶴田 文男
成瀬 徹
- (高13回) 中 浩之
- (高14回) 磯尾 進
水谷 鏡子
- (高15回) 神谷 国広
満江 信之
- (高17回) 伊與田 正彦
山田 博子
- (高18回) 伊藤 博邦
音部 昌宏
清水 久雄
山内 恵
- (高19回) 福山 透 情報
- (高20回) 天野隆太郎 企画
辻村 貴典
- (高21回) 内山田 邦夫 会長
小栗 恵子
山田 俊文
- (高22回) 上田 洋子 広報
新庄 弘之
- (高23回) 野々山 浩

- (高25回) 内田 寛
戸田 譲三 会計監査
- (高26回) 織田 利彦 事務局長・企画・広報
- (高27回) 長田 光雄 会計
岸 洋平 会計
- 山崎 正枝
- (高28回) 酒井 邦彦
- (高30回) 米津 智徳
- (高31回) 石田 満理
高原 正之 副事務局長・企画
岩間 由紀
- (高32回) 堀内 友二 副事務局長・会計・企画
- (高33回) 小出 一典 企画
鈴木 祐子
山本 岳彦
- (高34回) 板谷 敏正 副事務局長・企画・情報
井上 由美子 副会長・企画
- (高35回) 糸井 真由美
小川 美季 広報・書記
菅 伸介 副事務局長・会員
- (高36回) 平松 理生
- (高37回) 稲葉 重浩 会計
庄司 聖志
西川 智基
- (高38回) 中西 和幸 企画
桃井 聖司 企画
- (高40回) 大田 武 会計
- (高41回) 立山 秀利
中鉢 朋子 副事務局長・書記
- (高42回) 長野 麻子 広報

- (高43回) 五十嵐 妙
- (高44回) 松尾 直樹 企画
- (高45回) 筒井 貴之 情報
西浦 瑞恵
- (高46回) 朝岡 大輔
大川 博 広報
- (高47回) 杉本いづみ 会員
佐藤 さおり
- (高49回) 丹羽 尚
- (高50回) 鳥居 福代 情報
- (高52回) 清水 雄太 情報
近藤 佳子 広報
- (高53回) 石井 貴大
辻内 直子
- (高54回) 安藤 康伸 企画
石橋 亮
岡田 尚博 企画
加藤 直也 広報・企画
- (高57回) 川口 敦子
- (高58回) 石川 航己 企画
岩間 亮
- (高59回) 嶋田 亘
- (高60回) 本多 健太郎 企画
- (高61回) 鈴木 貴之 会員
藤田 槇子
- (高62回) 栗津 文香
- (高63回) 河原 宏太
吉兼 峻史
- (高64回) 鈴木 康啓 企画
扶瀬 聡史
- (高65回) 横字 史年
加藤 優里

令和3年度運営協力金協力者芳名

Table listing names and contribution amounts of supporters for the 2021 fiscal year. Columns include names, contribution amounts (e.g., 高25回), and other names.

編集後記

本号を手にとられて多少驚かれた方も... 総会には何と云っても総会の懇親会です。久闊を叙する機会として大きな役割を果たすとともに、段戸サークルや世話人会への参加のきっかけにもなった方も多くいらっしゃると思います。残念ながらこの2年間はコロナ禍のため、やむなく中止とさせて頂いたのですが、今年は3年ぶりに復活します。皆様、奮ってご参加ください。

近年女性の社会進出が顕著になってきました。自らの夢を実現する起業家、専門性を活かして第一線で働くキャリアウーマン、主婦業を抱えながら仕事もこなす女性などさまざまです。今回はスタートアップされた繁田さん、サウンドアーティストの細井さん、サウンで奮闘中の近藤さんのお三方から寄稿いただきました。若い方の参考になれば幸いです。「私のいた頃の岡高」は団塊の世代の清水さんに語っていただきました。当時、大学をはじめ高校でも学園紛争が頻発し、東大入試中止などさまざま社会問題が引き起こされ、岡高も愛教大が隣接していたこともあり、学生運動の影響を少なからず受けたそうです。私は昭和46年入学ですが、すでにほとぼりは冷め、平穏な岡高でした。最後にサークル活動の紹介として「俳句の会」の本多さんからご報告いただきました。句会には精力的に活動され、HPにもかなりの頻度でその状況が載っております。ぜひご覧ください。

(織田)